

H30年度 地域づくり部会 振り返り・評価シート

H31年2月12日作成

1 今年度の活動について

【今年度の方針】

地域生活支援拠点等の整備における5つの機能の検討・検証を行う。

【今年度の取り組み内容】

開催回数	8回	開催月	6月、7月、8月、10月、11月、12月、1月、2月
------	----	-----	----------------------------

具体的活動内容

・今年度は、優先度の高い「緊急時の受け入れ・対応」機能について、検討・検証を行った。
・拠点機能を有する「ながおかホーム」(中越福祉会)の担当者から報告をもらい、状況確認を行った。
・実態を把握するため、障害者の緊急時対応に関する実態調査をアンケート形式で実施した(対象者は相談支援事業所、居宅介護事業所、短期入所事業所)。
・実態調査の結果を踏まえて検討した上で、「緊急時の受け入れ・対応」機能についてのフローチャート(素案)を作成し、フローチャートについてのイメージや方向性を共有した。

【今年度の取り組み結果】

(今年度の活動からどのような結果となったのかを記載)

・実態調査の結果、緊急時に必要な支援について、福祉サービスの利用ではなく、見守り支援等が必要な場合が多くあり、相談支援事業所がその役割を担っていることがわかった。一方で、全くの新規での緊急ケースもあり、情報のない中での対応や調整はかなり大変であることもわかった。
・実態調査を踏まえて検討し、①緊急のショートステイの受け入れ施設を調整する仕組みづくりが必要。②①の仕組みの中で、コーディネートの役割が必要。③緊急事態を予防するための支援(アウトリーチを含めた地域づくり等)が必要ということを確認した。
・「緊急時の受け入れ・対応」機能についてのフローチャート(素案)について、必要な仕組みや検討が必要な事等について確認した。今後は、フローチャートを元に、市を主導として検討を行っていくこととなった。

【取り組みの成果】 ※モニタリングを実施した場合のみ

(取り組みの結果が「どのように地域へ還元できたのか」をモニタリングから確認した内容の記載)

2 今年度の振り返り及び評価について

【今年度、協議会活動を通じての振り返り(メンバーの感想・意見)】

メンバーが協議会での活動を通じて感じたことや気づき、今年度部会・ワーキングの取り組みに関すること、長岡市協議会の運営や体制に関する課題・意見等

- ・地域に目を向ける有意義な時間だった。自分自身のスキルアップになった。
- ・「緊急時の受け入れ・対応」機能について、最初に取り組んでよかった → 今後やるべき課題が見えてきた。
- ・地域診断を行い、実態把握をきちんとできた。→ きちんと整理した上で、実態把握をした結果や今後の取組について、伝える機会が必要。
- ・相談支援事業所は、各々で頑張っている状況であるが、それでよいのか、評価することが必要ではないか。
- ・アンケート調査から、具体的にどのようなケースがあり、どんな対応をしているかがわかった。サービスの利用ではなく、相談支援が支えているところ(見守り支援等)が多いことがわかった。
- ・実態把握の説明会にて、市の取り組みを知ってもらうことができた。行政だけでなく、周りを巻き込んで皆でやっていくことが大切。
- ・市が拠点整備をどのように進めていくかのやりとりを、ながおかホームとできた。相談体制の整備についての進捗を共有しつつ、24コールセンターの役割を再検討していくことが必要。
- ・地域づくりをしていくためには、役割の整理が必要(行政、相談支援事業所、サービス提供事業所)。
- ・相談支援事業所について、実態調査をする中で、評価してもらえたことはよかった。
- ・市の状況や課題について、なんとなくわかっていたが、フローチャートを作成し、具体的に見える化したことはよかった。
- ・緊急時にならないための、予防的支援については手つかずであり、今後どうしていくかが課題。
- ・部会での取り組みを、いかに発信していくかが大切。わかってもらうことで、地域づくりしやすくなる。
- ・「地域生活支援拠点等の整備」が掲げられたことで、具体的にどうしていこうか、という検討ができるようになった。
- ・漠然とではなく、裏付けをとりながら行うことが大切。
- ・長岡市は、大きな法人が複数あり、法人間の連携は取りづらい地域である。
- ・「地域生活支援拠点等」のイメージがつきづらかったが、部会の活動の中で理解できた(フローチャートの見える化)。
- ・部会メンバー以外の人に、「地域生活支援拠点等」のイメージをもってもらう必要がある。具体的にどのような機能なのかを示せるとよい。
- ・実態調査では、こちらの意図が十分に伝わっていなかった(相談支援事業所の緊急時の捉え方は、事業所によってバラつきがあり、出てきたものは氷山の一角だった)。また、本人・家族を対象とした場合には、緊急時の捉え方に開きが生じる可能性もある。
- ・相談機能と、地域の体制づくり機能については、体制部会と連動していくこととしていたが、できていなかった。
- ・部会メンバー以外の現場職員、法人への情報発信が必要(他人事になっている傾向がある)。

【協議会の機能について】

今年度の活動の中で(活動の振り返りから)、どのような協議会の機能があったかを確認する。

※協議会の機能詳細については別紙を参考。

	確認した機能の内容 (どのような部分が機能であったか、なかった場合はなぜなかったか等)
情報機能	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査から、具体的にどのようなケースがあり、どんな対応をしているかがわかった。サービスの利用ではなく、相談支援が支えているところ(見守り支援等)が多いことがわかった。・実態把握の説明会にて、市の取り組みを知ってもらうことができた。・市が拠点整備をどのように進めていくかのやりとりをながおかホームとでき
調整機能	
開発機能	<ul style="list-style-type: none">・面的整備に向けて、実態把握をきちんとすることができた(地域診断を行った)。
教育機能	
権利擁護機能	<ul style="list-style-type: none">・地域生活支援拠点等についての検討そのものが、自分の住みたい地域で暮らすということであり、権利擁護につながっている。
評価機能	<ul style="list-style-type: none">・相談支援事業所がどういったケースを対応しているかを把握できた。

【今年度の振り返り・協議会の機能から確認できた成果】

※モニタリングによる成果(地域へ還元できたかどうかの成果)とは異なることに留意

<ul style="list-style-type: none">・調査を実施し、実態把握(地域診断)ができた。・調査を実施する中で、市の取り組みを知ってもらえた。・「緊急時の受け入れ・対応」について、フローチャートを作成し、具体的に見える化できた。
--

3 来年度の取り組みについて

来年度の継続	<input checked="" type="radio"/> 継続	<input type="radio"/> 終了
継続・終了の理由	「専門的人材の確保・養成」、「体験の機会・場」機能について検討が必要なため	

※部会を一旦終了とする場合については、運営会議にて協議の判断材料とできるようその理由を明確に記載すること。

今年度の取り組みに対する モニタリングの実施	<input type="radio"/> 有	<input type="radio"/> 無	モニタリング実施時期	年	月
---------------------------	-------------------------	-------------------------	------------	---	---

※ワーキングのみ記載

【振り返り・評価内容を受けて、来年度改善を行うこと】 ※来年度継続の場合

会議内容や方法に取り入れることなど、具体的に記載する。

・必要な取組を検討するには、まずは現状の把握が必要である。
・単年度で2つの機能の現状把握を行っていくことは困難であることから、部会メンバーを2班に分けて、各機能を検討する(同日・同時刻に開催し、最後は2班合同で検討した内容を共有できるようにする)。

【来年度の方向性・具体的取り組み内容や引継ぎ事項等】 ※来年度継続の場合

「専門的人材の確保・養成」、「体験の機会・場」機能について、現状把握を行った上で、必要な取組について検討する。